

糸島市新庁舎建設

実施設計書【概要版】

目次

1. コンセプト

2. 設計概要

3. 事業工程

4. 配置計画

5. フロア構成

6. 市民活動エリア

7. 平面計画

8. 立面計画

9. サイン計画に

ついでの方

10. 事業継続計画

11. 環境配慮計画

令和 3 年 7 月



糸島市



株式会社 梓設計 九州支社



新庁舎イメージ

1. コンセプト

新庁舎のコンセプト

まちづくりを 創造する庁舎

- 1** みんなが分かりやすく
利用しやすい庁舎
来庁されるすべての方が、わかりやすく・安全で・快適に利用できるように**ユニバーサルデザイン**を行い、利用頻度が高い**窓口をアクセスしやすい低層階に集約**するとともに、わかりやすい案内表示を行うなど、**利便性の高い庁舎**とします。
- 2** 安全・安心を支える
防災拠点としての庁舎
市役所は災害発生時、対策本部として県・警察・自衛隊などの関係機関と連携し、被害状況の把握や応急・救援活動などへの迅速な対応が必要です。災害発生時にも**防災拠点として庁舎機能を維持**できる**高い耐震性・安全性を備え、危機管理機能を強化した市民の安全・安心を支える庁舎**とします。
- 3** 自然エネルギーを取り入れた
環境にやさしい庁舎
省エネルギー推進を基本として、**高効率な設備システムを採用**し、環境に配慮します。また、長期的な維持管理を見据え、**建物の長寿命化を図る**とともに、再生可能エネルギーの積極的活用を図り、**経済性に優れ、地球環境にやさしい庁舎**を目指します。
- 4** 気軽に市民が集い
情報を受発信する庁舎
来庁される方へ、**糸島市の歴史・文化や地域の情報、市政情報を発信する庁舎**とします。また、**市民が日常的に利用できる交流の場を創出し**、市民協働・市民参画はもとより、**様々な活動を発信できる庁舎**を目指します。
- 5** 将来の行政需要に
柔軟に対応できる庁舎
時代の変遷に柔軟に対応し、多様化する市民ニーズに対応するため行政組織の改編にも対応できるよう、各課の間に間仕切りなどを設けない**オープンフロア化された庁舎**として整備します。
- 6** 情報セキュリティ
機能に優れた庁舎
個人情報、行政情報保護の観点から、執務スペースと受付スペースの区分や**防犯カメラの設置、認証カードシステムの導入**などにより、庁舎内での入室管理や平日夜間や土・日・祝祭日など閉庁時の入庁者管理を徹底し、**セキュリティ機能に優れた庁舎**とします。

はじめに

現在の糸島市庁舎本館は、昭和 45 年の建築で、建物をはじめ設備等の老朽化が進み、維持管理には多額の費用を要しています。また、災害時の防災拠点としての機能、多様化する市民ニーズに対応した窓口や待合・相談スペースの充実など、時代の変化による様々な課題に対応できていないため建替えを行うこととなりました。

建替えにあたって、糸島市新庁舎建設計画を策定し、定めた基本方針のもと新庁舎建設基本・実施設計を進めてまいりました。

この度、実施設計の概要をまとめた「糸島市新庁舎建設実施設計書【概要版】」を取りまとめました。

2. 設計概要

建 設 地	糸島市前原西一丁目	日影規制	4m 3 時間 /5 時間
敷地面積	8,937.78 m ²	建築面積	2,984.49 m ²
用途地域	準住居地域	延床面積	11,716.70 m ²
指定容積率	200%	構 造	RC造一部S造(免震)
指定建蔽率	60%	階 数	地上 6 階

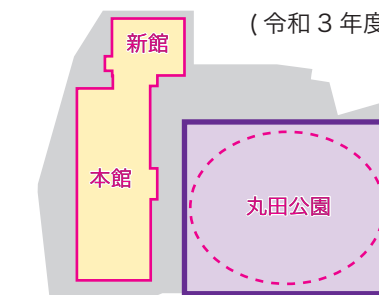
3. 事業工程

庁舎建設を効率的に推進する事業計画

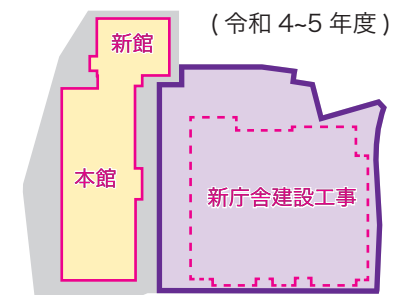
既存庁舎の業務を継続しながら、同じ敷地に新庁舎を建設します。

- ①丸田公園を解体し、庁舎が敷地として使えるよう造成工事を行います。
- ②丸田公園跡地に新庁舎を建設します。
- ③新庁舎への引っ越し完了後、新館を除く既存庁舎の解体工事を行います。
- ④外構工事を行います。

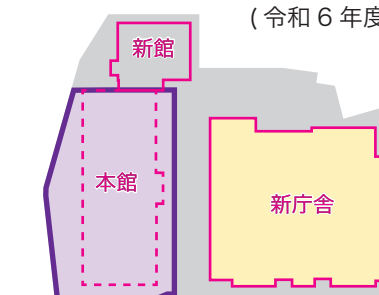
STEP① 新庁舎建設敷地造成工事 (令和 3 年度)



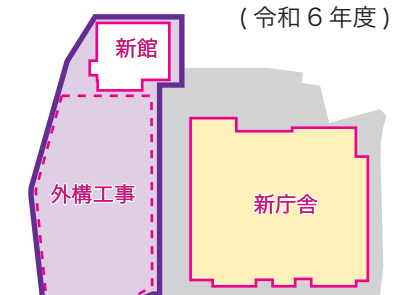
STEP② 新庁舎建設工事 (令和 4~5 年度)



STEP③ 既存庁舎解体工事 (令和 6 年度)



STEP④ 外構整備工事 (令和 6 年度)



4. 配置計画

丸田池公園と一体となる市民にひらかれた新庁舎

新庁舎は、既存庁舎での業務を継続しながら現地建替えが行えるように敷地南東側（現在の丸田公園）に配置します。丸田池公園と一体的に整備することで、周辺景観との調和を図るとともに、市民にひらかれた庁舎を目指します。また、敷地内の歩車分離を図り、来庁者に分かりやすく、利用しやすい動線計画・配置計画とします。

◀ 玄関

歩行者及び公共交通機関を利用される来庁者は主に北玄関と南玄関を利用し、車を利用される来庁者は、駐車場から最も近い西側の正面玄関を利用する計画とします。

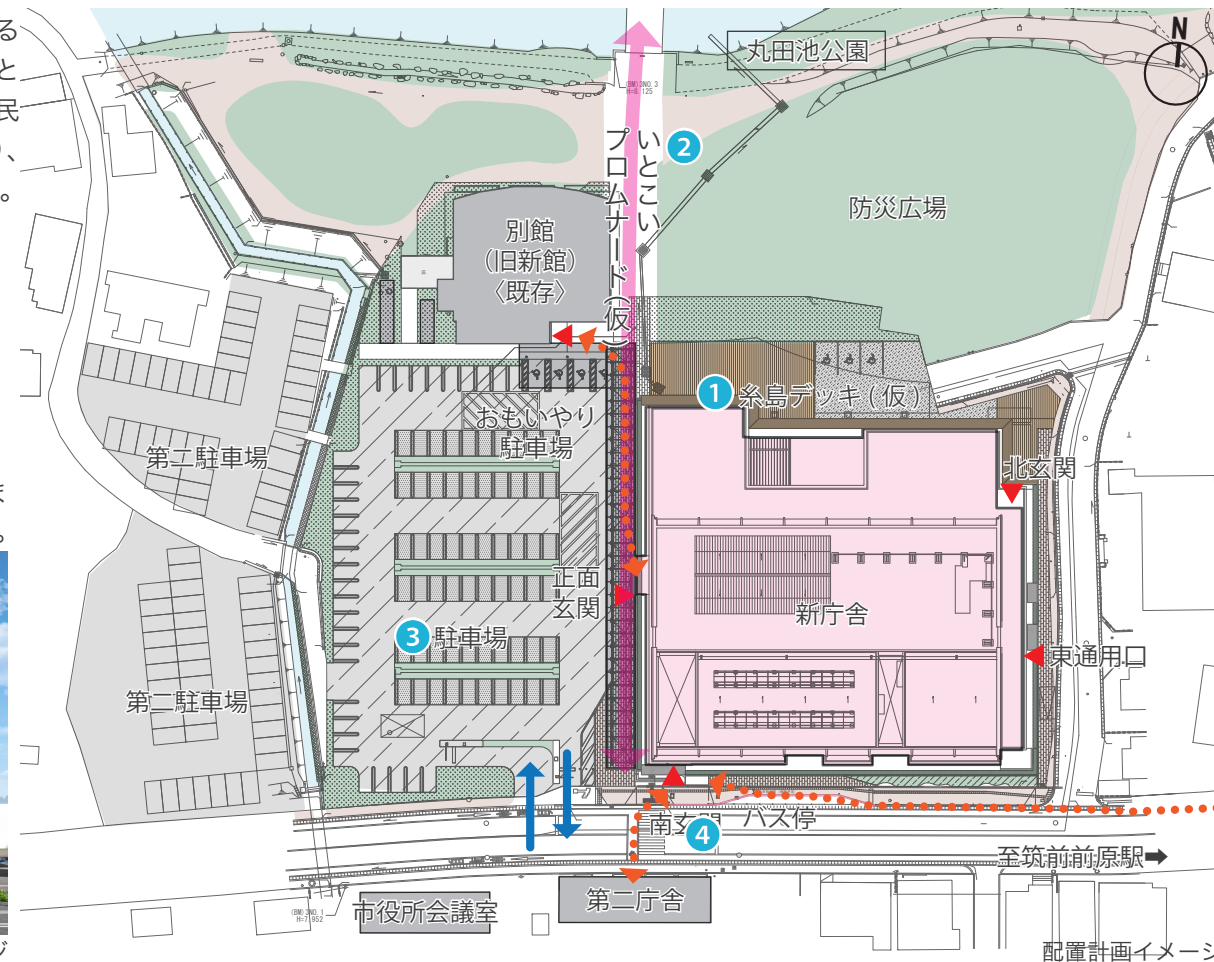
東玄関は職員通用口及び搬入口として利用する計画とします。

● 車両動線

一般車両は南側出入口から駐車場にアクセスできる計画とします。搬入車両は東側道路に一時駐車できるスペースを確保します。



正面玄関イメージ



配置計画イメージ

● 歩行者動線

敷地への出入口は、南側道路と東側道路に設け、丸田池公園側からもアクセスできる計画とします。

おもいやり駐車場からは雨天時にもなるべく濡れずにアクセスできるよう、屋根付きの歩行空間を計画します。

①（仮称）「糸島デッキ」

筑前前原駅からも近く、将来丸田池公園と一体的に整備し、新庁舎の市民ホールや防災広場と連携したイベントや催し物が開催できる市民の憩いの場として整備します。

②（仮称）「いとこいプロムナード」

新庁舎正面玄関前の歩行者空間と丸田池公園の〈いとこい橋〉、新館や第二庁舎をつなぐ南北の軸線を、来庁者と丸田池公園利用者が往来し、賑わうメインストリートとして整備します。

いとこいプロムナードは歩車分離を徹底した歩行者空間とし、子どもや高齢者も安心して往来できる空間とします。

③ 駐車場の配置

敷地西側に来庁者用駐車場を設けます。おもいやり駐車場は新庁舎と現新館とも利用しやすい場所に計画します。

④ バス停の配置

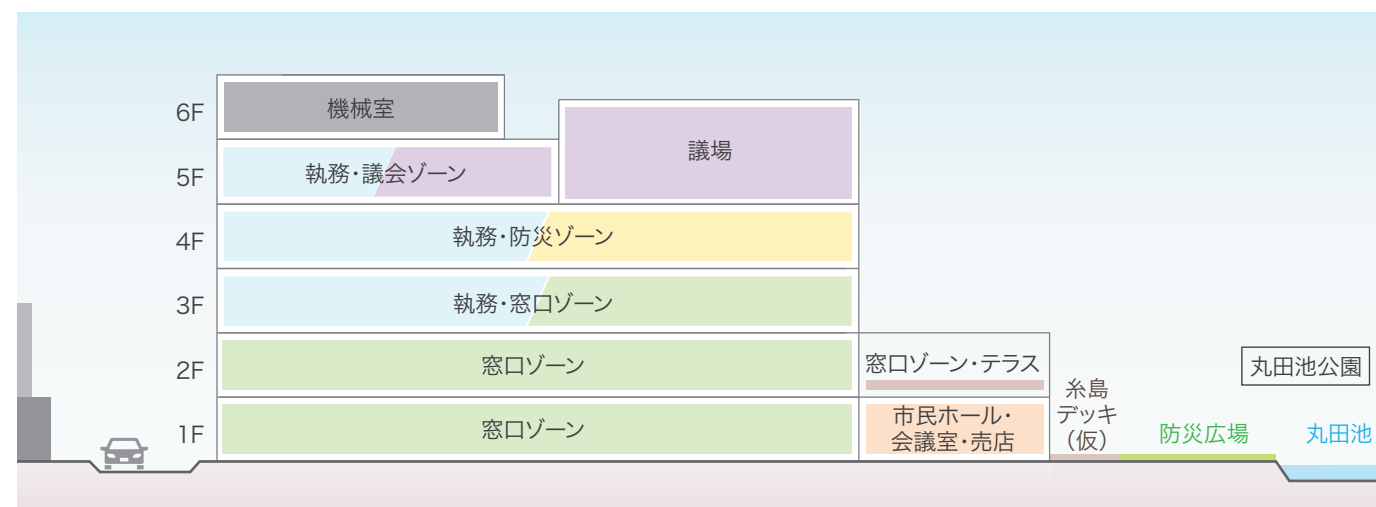
駐車場内は最大限の駐車台数が確保できるよう配慮し、新庁舎の南側道路に設置を検討します。

道路と高低差のある部分は植栽帯を設け、敷地内通路と一体的に整備し、駅からの歩行者を迎え入れる計画とします。

5. フロア構成

市民の利便性確保と充実した行政サービスの提供

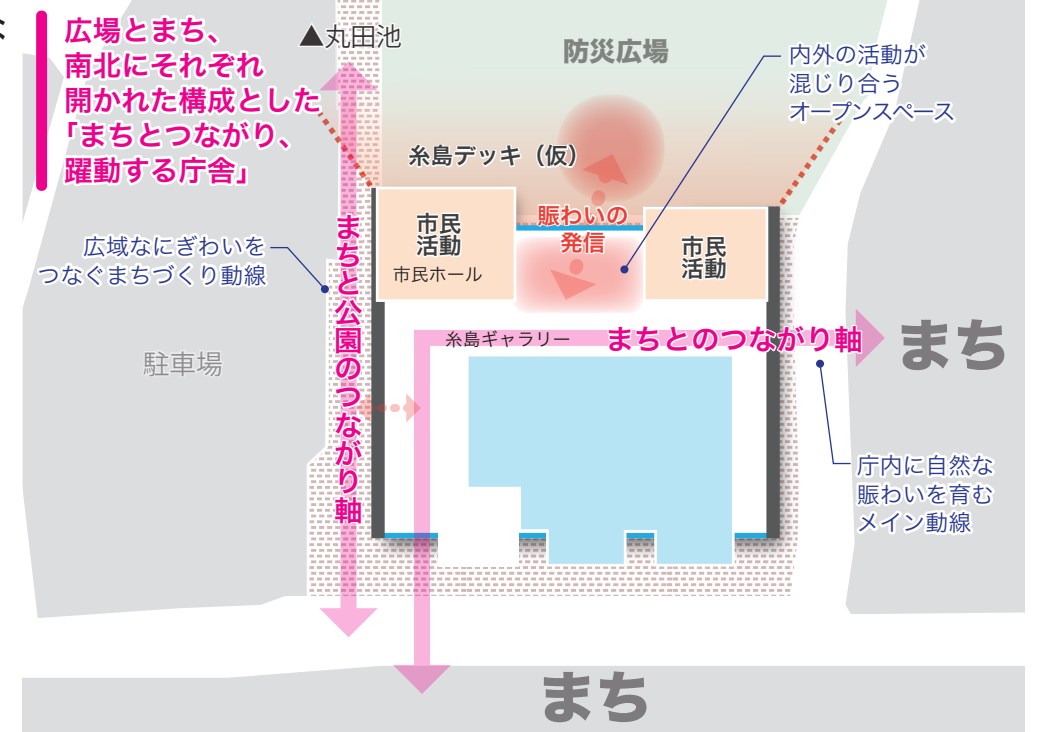
- ・ 1～3 階には、市民の利用頻度の高い窓口部門を効率的に配置します。
- ・ 4 階には防災機能と庁舎内の総合管理部門を配置します。
- ・ 5 階には議会機能を集約配置し、眺望を活かした展望ロビーといった憩いの空間を設けます。
- ・ 閉庁の際にも市民が利用できる機能を 1 階北側に配置し、セキュリティを確保しながら利用を可能とします。



6. 市民活動エリア

広場に面したオープンな交流拠点機能

1 階には、多目的に利用できる（仮称）「市民ホール」や情報公開及び観光情報発信の場となる（仮称）「糸島ギャラリー」を設けます。屋外には「市民ホール」と連携した（仮称）「糸島デッキ」や、防災広場を配置し、内外を一体的に活用できる工夫とします。外気に開放された空間とすることで新興感染症対策にも寄与できます。その他、5 階には公園の緑や街並みを一望できる「展望ロビー」を市民開放スペースとして整備します。

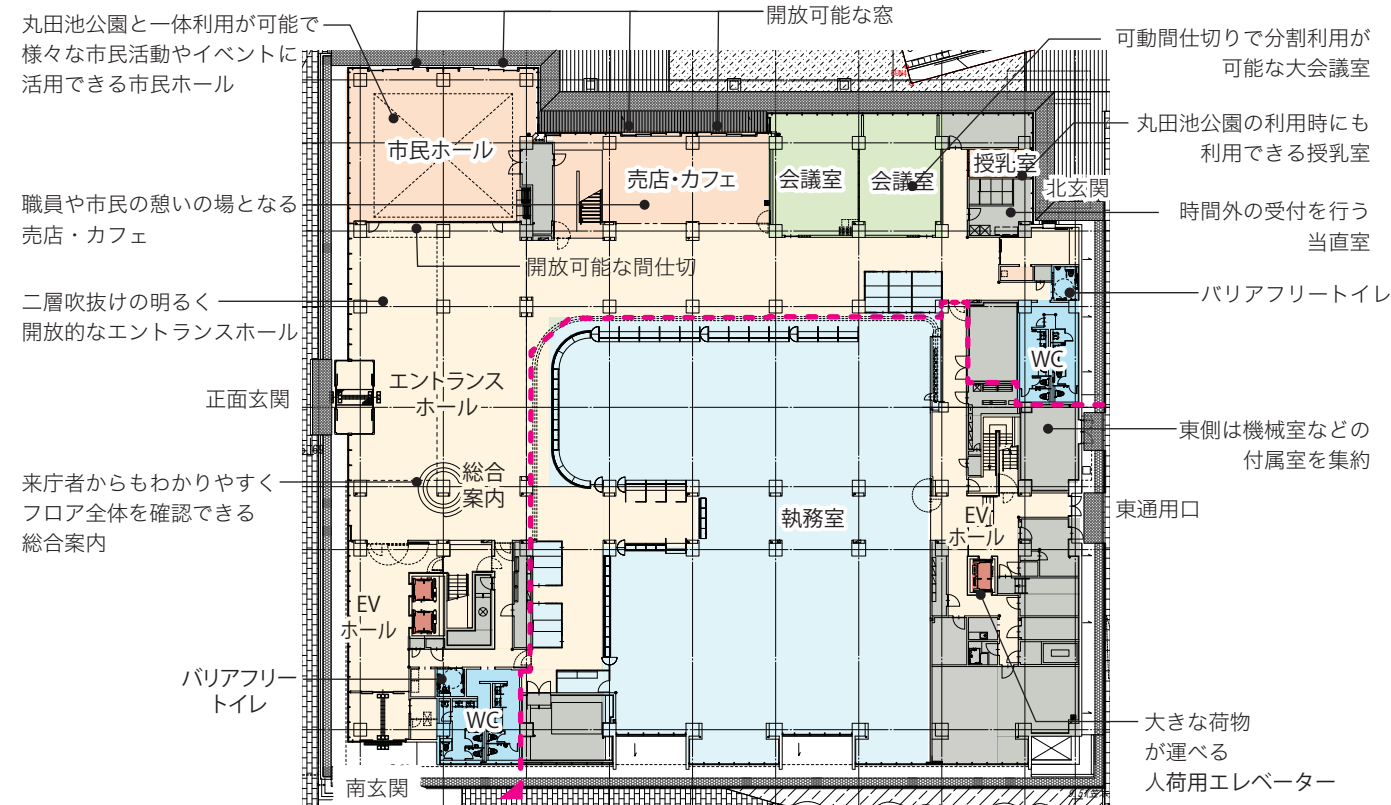


7. 平面計画

1 階 窓口部門

丸田池公園と一体利用を可能とした開放的な市民活動エリアを計画します。
待合スペースをL字に配置し、視認性が高く分かりやすい窓口を計画します。

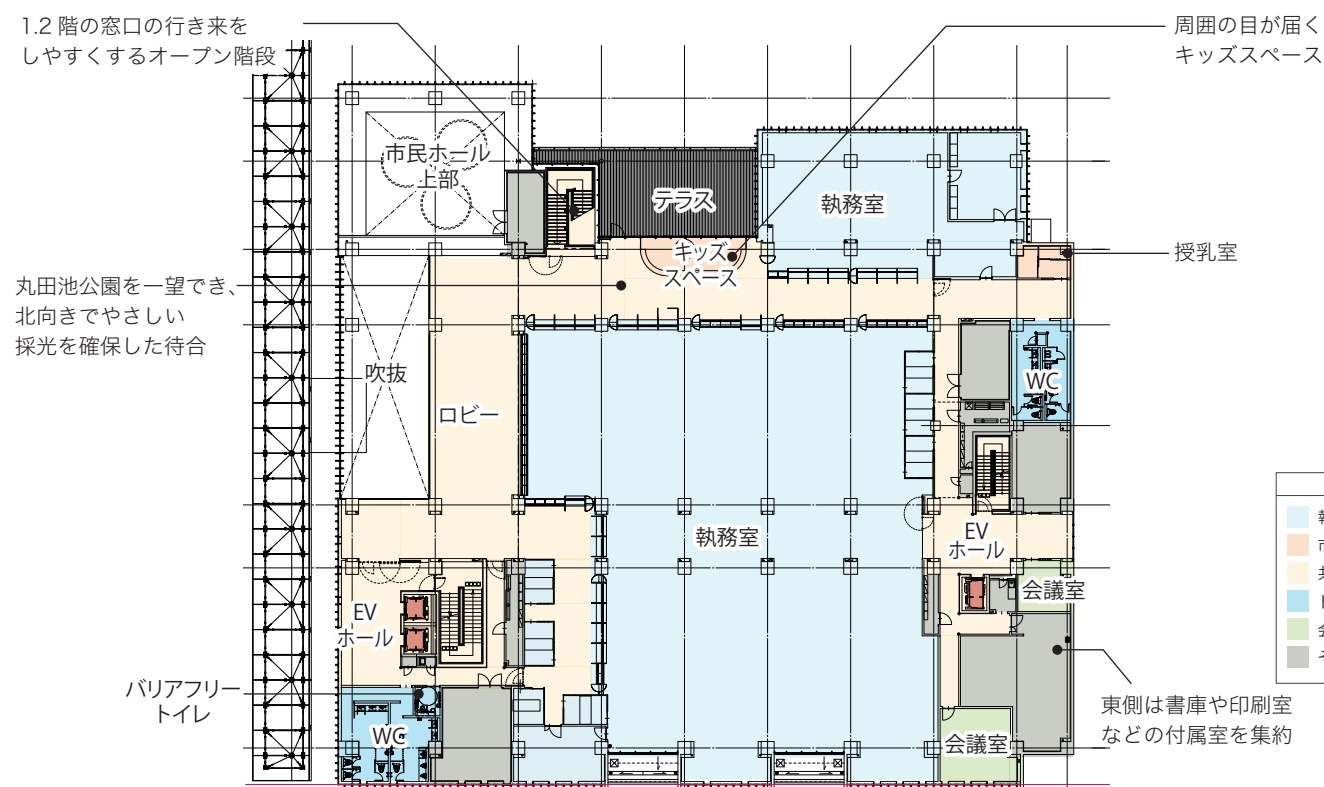
◇証明発行、住民異動、税に関する事など



2 階 窓口部門

開放的なテラスを持ち、親子連れにも配慮した待合スペースをもつ計画とします。

◇健康、福祉、学校に関する事など

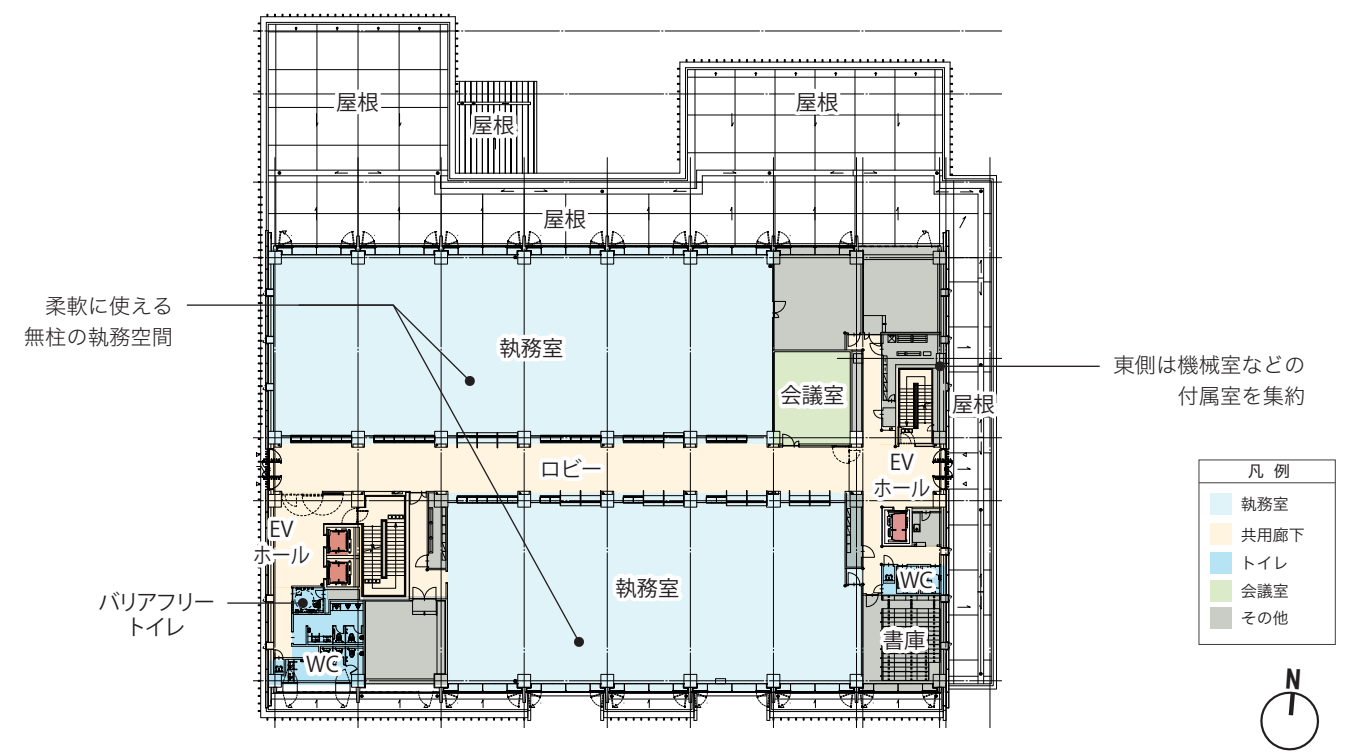


市民ホールを開放した際のエントランスホールイメージ

3 階 執務・窓口部門

執務室は間仕切りのないオープンフロアとし、床吹き出し空調を採用します。

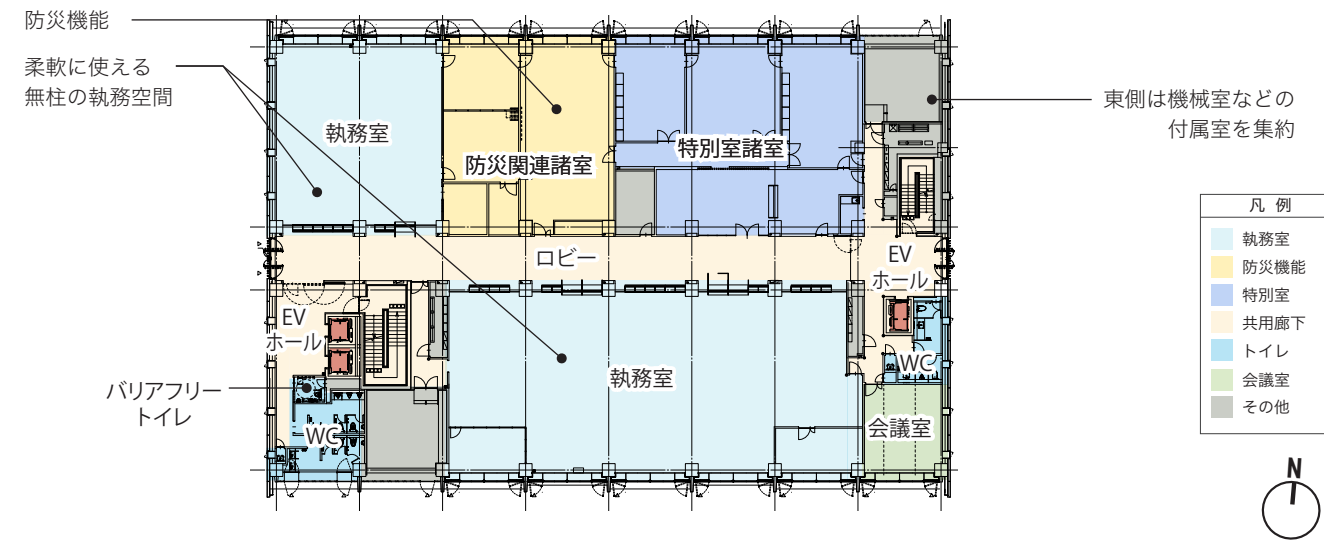
◇建設都市、産業振興、上下水道に関する事など



7. 平面計画

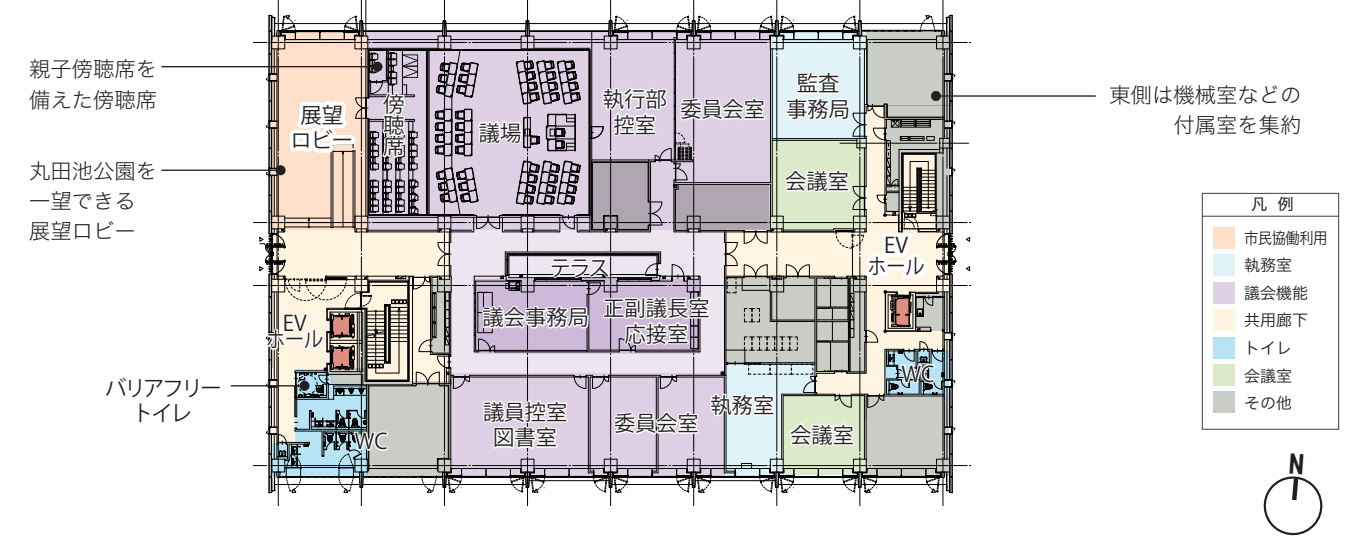
4 階 執務・防災部門 市庁舎の中核を担う防災機能を集約し、あらゆる災害に対応できる計画とします。

◇総務、企画、危機管理に関する事など



5 階 議会・執務部門 眺望を活かした展望ロビーと、議会諸室を計画します。

◇議会に関する事など



議場イメージ



議会事務局周辺の廊下イメージ

8. 立面計画

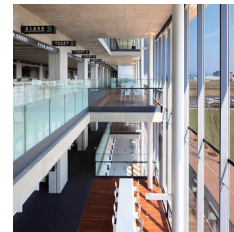
「糸島市のまちづくりを先導する新たな庁舎のカタチを提案します。」

Keyword

01

■気軽に集える開放的な通り庭

近年の庁舎は行政機能にとどまらず、日常的な市民の憩いの場となることが期待されます。そこで低層部はガラス張りのデザインとして、広場やまちと一体的なつながりを生み、気軽に訪れやすい雰囲気づくりを演出します。



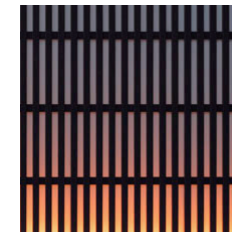
イメージ図

Keyword

02

■お出迎えの表情づくり

古来より日本の家屋には人々を出迎える設えとして、木格子のデザインが多用されてきました。二層部分にぐるりと回した格子の柔らかく温かみのある表情は人々に安らぎを与えると同時に、格子が作る陰影が建物に奥行きを作り出し、まちの顔としての表情をより豊かに演出することを期待できます。

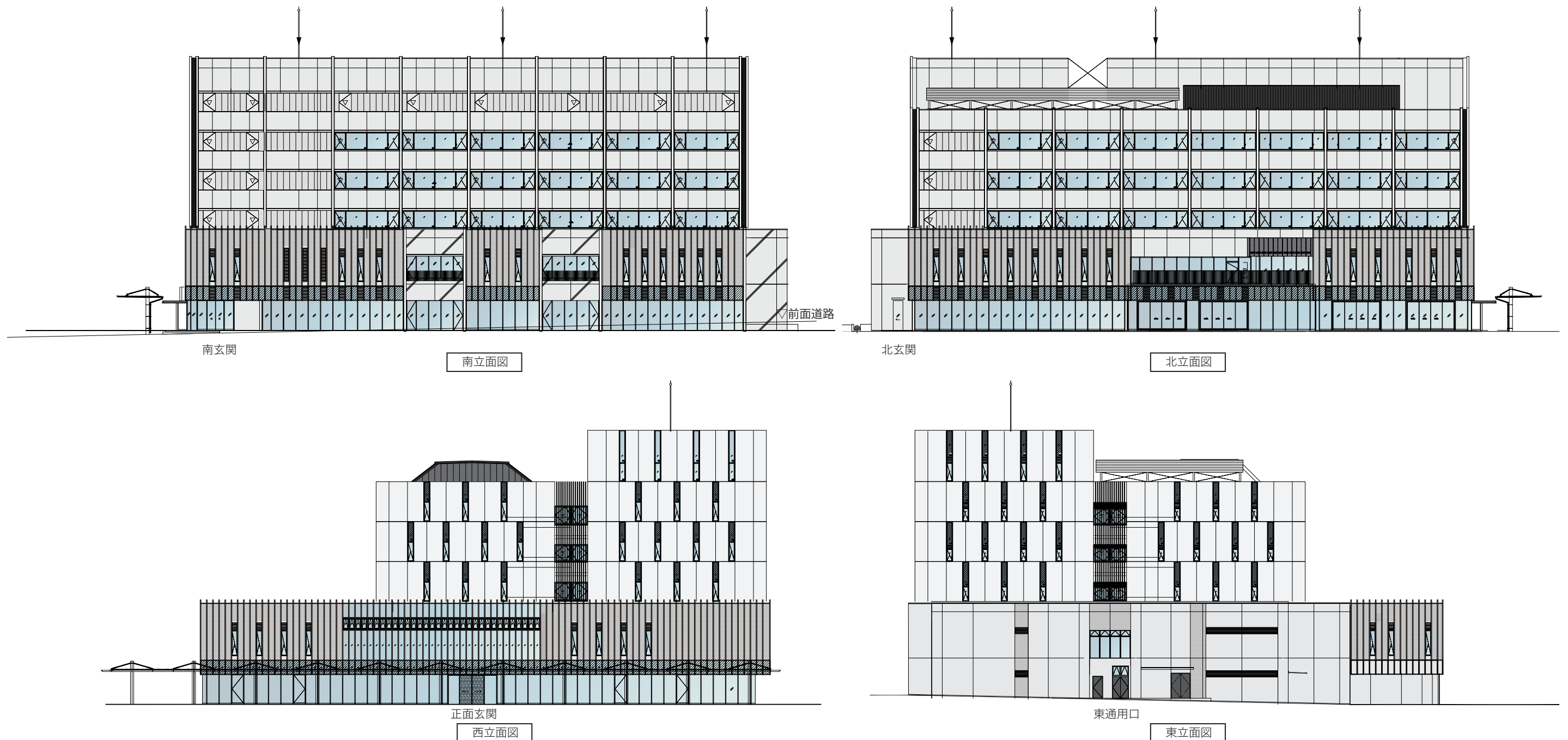
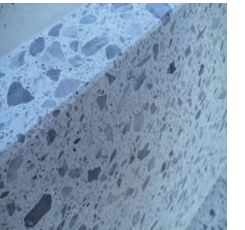


Keyword

03

■建物に彩りを与える建材の工夫

基準階部分は省エネ庁舎に配慮した機能的なボリュームとしながらも、淡泊になりすぎない工夫として表情のある建材を建物のメインエントランスに面して配置するなど、親しみやすく、味わい深い新たな糸島市のランドマークを創出します。



9. サイン計画についての考え方

糸島 i
itoshima [i]

- ・ 情報を受発信する庁舎 [i]nformation
- ・ 主体性を持った庁舎 [i]dentity
- ・ 糸島の中心となる庁舎 [i]sland
- ・ 影響を与える庁舎 [i]nfluence
- ・ 革新を起こす庁舎 [i]nnovation

サインコンセプトは、「糸島 i」。

著しい変化に柔軟に対応しながら、自然の豊かな独自の風土を持つ糸島。新庁舎は、市民の中心となり、愛されていく庁舎です。

新庁舎には、様々な「i」が有り、その「i」が機能すること、変化に対応すること、革新を起こし続けることで、新しい価値を生むことが出来ます。サインは個々の情報が機能することで、施設全体の情報整理に繋がりを訪れる人々の行動支援装置となります。

サイン＝「i」が連携していくことで、より価値のある施設を創造することを目指します。

●モチーフ（オリジナル）

①基本 i エLEMENT

英語の「i」を基本要素に設定します。

②展開例 1

「i」の形状を保ちながら自由自在に変化します。

展開例 2

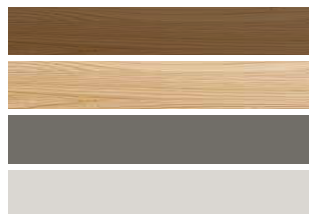
「i」の組合せで、生まれる i パターンは様々な表情を作ることが出来ます。



●カラー

ベースカラー

内装に合わせたグレー系と木（木目）



アクセントカラー

利用者が異なるフロアで2色に分ける



高層階(3～6階 執務部門) 糸島の海・空をイメージした青色

低層階(1～2階 窓口部門) 糸島市のシンボルカラーである黄色

全階共通 水や水蒸気をイメージしたオフホワイト

●素材



木
(糸島産木材)

糸島産の木材を使用することで、地域の PR とともに親近感と愛着が湧くサインとなります。



光・照明

サインに光を用いて利用者を優しく誘導する役割をもたせます。また、糸島が名所である「ホテル」のイメージや、市のカラーである黄色を光で表現することでオリジナリティを創出します。



フェルト

窓口の仕切りにはフェルトを使うことで、温かみのあるやわらかな印象を与えます。

●ピクトグラム（オリジナル）

直感的に情報を伝える（理解する）手段として、ピクトグラムは有効です。

建築・内装デザインと調和すること、施設の独自性を創出すること、誰もが分かりやすいデザインであることを目指します。



●書体

和文選定書体：砵 丸ゴシックASr StdN R

英文選定書体：Sofia Pro Soft

糸島市役所

あいうえおかきくけこ
アイウエオカキクケコ:、。～

サインとしての可読性を保ちながらも、全体的に丸みのある柔らかい印象の書体です。

ITOSHIMA CITY HALL

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789:'.-?

※多言語表記が必要な場合は、同等規模の実績のある翻訳会社を選定することとします。

●ユニバーサルデザインへの配慮

視 認 性

- ①背景との輝度差（コントラスト）を充分に確保した表示を行う。
- ②一定の距離からでも判読できる文字サイズとする。
- ③一定の距離からでも存在を確認できるサインのサイズとする。
- ④空間に調和しつつ、はっきりと認識できる色彩とする。

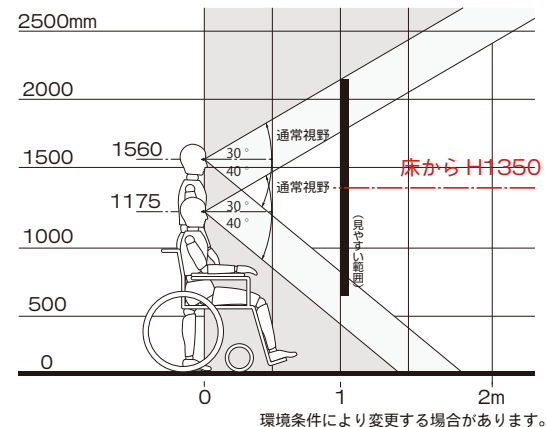
●表示サイズの基準

サイン表示面の文字およびピクトグラムの表示サイズは、

下記の基準を参考に計画を進める。

視認距離	和文文字高	英文文字高	ピクトグラム基準枠
1～2m	9mm 以上	7mm 以上	35mm 以上
4～5m	20mm 以上	15mm 以上	60mm 以上
10m	40mm 以上	30mm 以上	120mm 以上
20m	80mm 以上	60mm 以上	240mm 以上

●1 m の近距離から視認するサインの場合



理 解 性

- ①簡単に単純なコンテンツとする。
- ②難しい漢字は使わない。
- ③短い文章で表示する。
- ④「やさしい日本語」を採用する。
- ⑤多言語化の範囲を決める。
- ⑥色彩の使い方に規則性をもたせる。
- ⑦こどもや高齢者、外国人、視覚障がい者、聴覚障がい者への対応も検討する。
- ⑧色覚の多様性に配慮する。

連 続 性

- ①施設名称、英語表記を統一する。
- ②利用動機を再整理し、必要な箇所で必要な情報を提示する。
- ③「案内」→「誘導」→「記名」の情報確認手段を明確にしたサインシステムを構築する。
- ④書体、ピクトグラム、色彩、レイアウトルールを共通化する。

景 観 性

- ①貼紙、貼札情報を確認し、サインシステムに含めた計画を進める。
- ②移動のための情報、注意禁止のための情報、広告 PR のための情報の種別を明確にし、すみ分けることによって、情報が散乱しない仕組みを検討する。



10. 事業継続計画

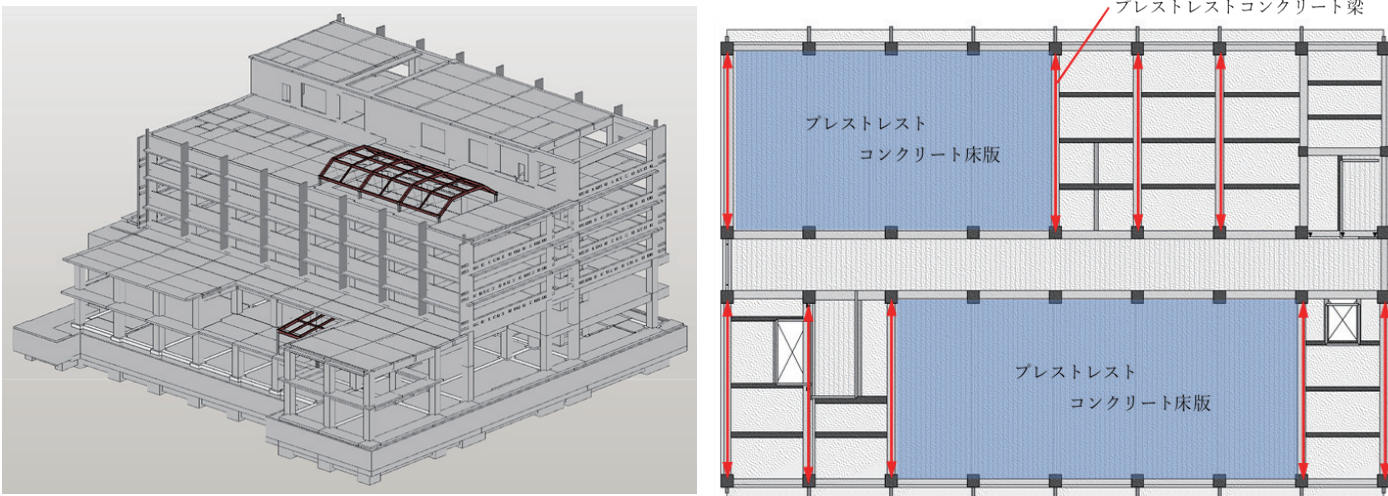
構造計画

階数：地上6階 地下なし
構造種別：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、プレストレストコンクリート造（基礎免震構造）
構造形式：純ラーメン架構
耐震安全性の分類：Ⅰ類（免震構造）
耐風性能の分類：Ⅱ類（構造体のみⅠ類）

新庁舎は、大地震動が起きた後も構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られるものとする。これに対応するため、「免震構造」を採用し、国土交通省の定める耐震安全性Ⅰ類とする。

架構計画

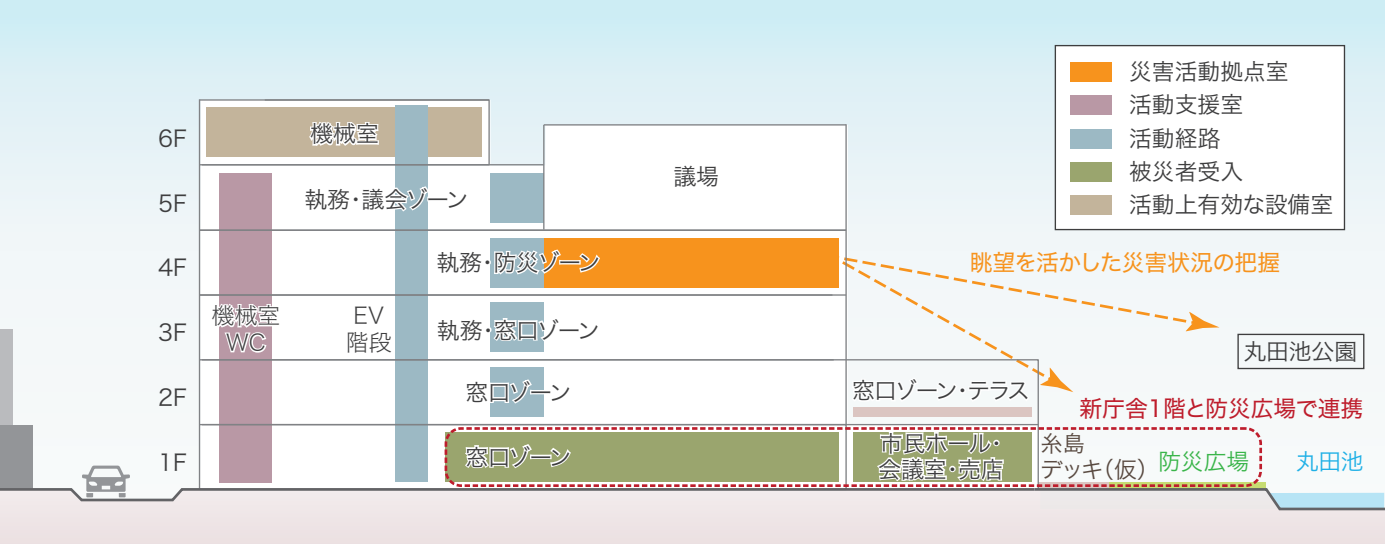
構造種別は、剛性が高く、耐震性、耐久性、経済性を考慮し、プレストレストを採用した鉄筋コンクリート造とする。架構形式は、将来の諸室の配置変更等に柔軟に対応出来るフレキシブルな純ラーメン架構とする。



基礎計画

計画地は、大地震時の液状化にも対応できる様に、基礎は GL-16 ～ 20m 付近にある N 値 50 以上の風化花崗閃緑岩を支持層とする杭基礎とする。

万一の災害時にも、業務継続可能な防災拠点



事業継続断面イメージ

・新庁舎は、災害などの非常時に防災拠点として市民の安全を支える重要な役割を担います。災害復旧活動の支援、関係機関との連携など、災害直後から長期にわたる復旧活動まで、防災拠点として業務継続できるように、6Fに機械室を設け、非常用発電により72時間の電源を確保します。

免震計画

- ・庁舎は耐震安全性の分類Ⅰ類の建物を目指すことから、建物の損傷を最小限に抑えて目標耐震性能が確保可能な免震構造とします。
- ・免震部材を建物と基礎の間に設置することで地震時に建物が大きくゆっくり揺れ、地震時のエネルギーを吸収する基礎免震構造とします。
- ・免震部材（「天然ゴム系積層ゴム」＋「プラグ入り積層ゴム」＋「弾性すべり支承」）を組み合わせることで本計画に適した免震計画とします。

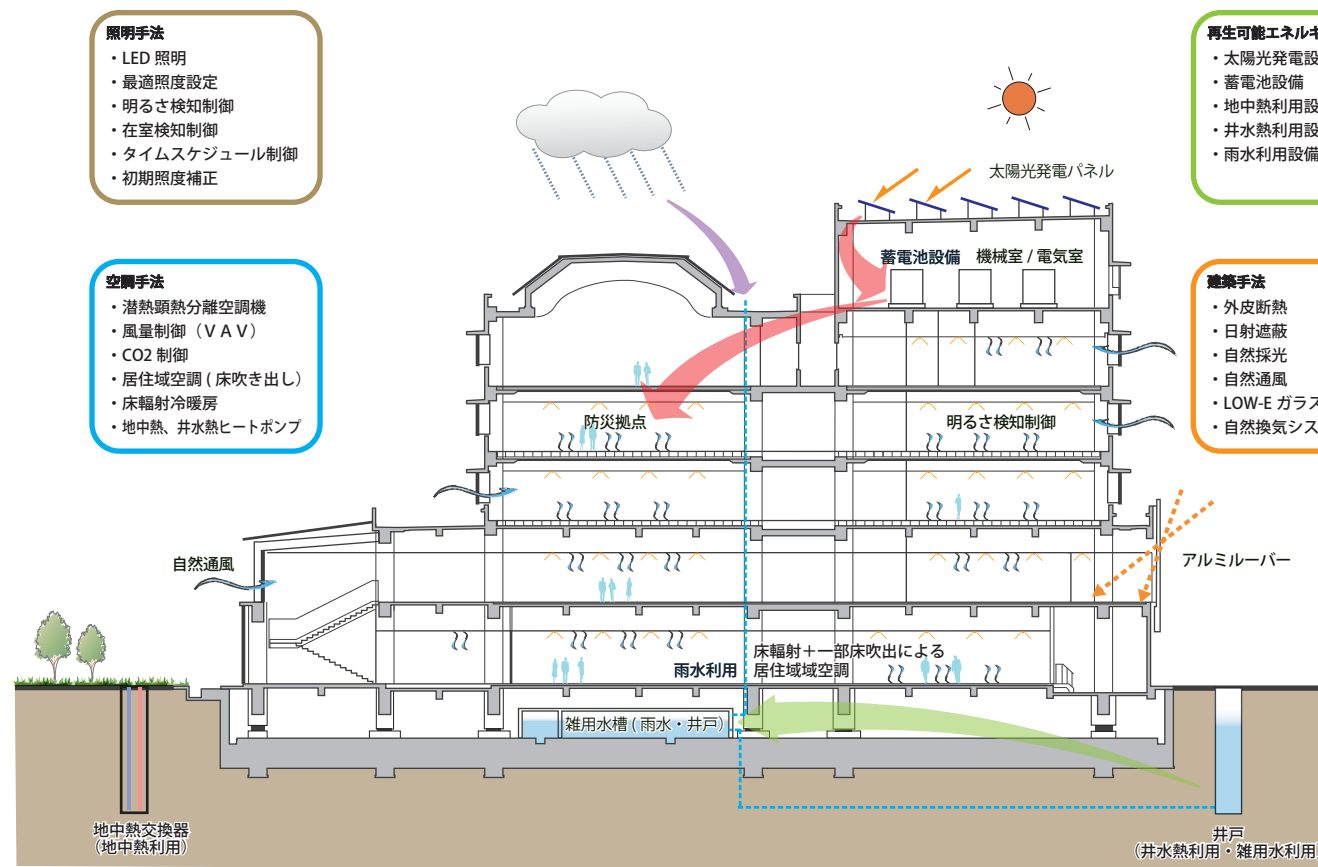
構造形式	免震構造
概念図	
特徴	地盤と建物の間に免震装置を設置し、地震を直接建物に作用させないようにすることで構造体の損傷を低減する構造形式

	天然ゴム系積層ゴム	プラグ入り積層ゴム	弾性すべり支承
免震部材			
特徴	ゴムと鉄板が交互に積層した製品。柱直下に配置し建物重量を支える。建物の周期を伸ばす役割がある。	積層ゴムの中央部に円筒形状の鉛や錫を設けた製品。柱直下に配置し建物重量を支える。建物の周期を伸ばす役割に加えて、地震時のエネルギーを吸収する役割がある。	積層ゴムと分離した板で構成される。柱直下に配置し建物重量を支える。建物の周期を伸ばす役割がある。

11. 環境配慮計画

豊かな自然エネルギー活用と高効率な設備システムの採用を図ります。

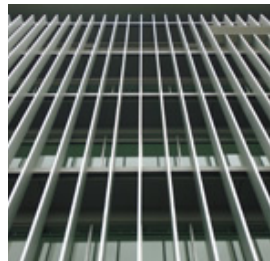
- ・「省エネ基準値 50%以上削減（ZEB Ready）」を達成する計画とします。



環境配慮断面イメージ

糸島市庁舎 | 環境提案イメージ

① アルミルーバー



② 雨水利用



③ 太陽光パネル



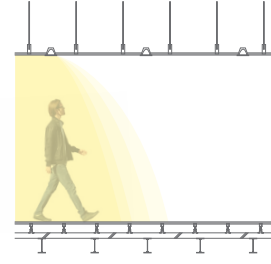
④ 透水性舗装



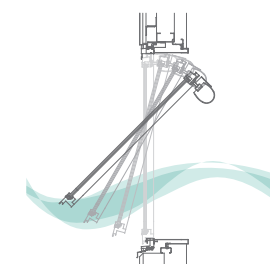
⑤ LED 照明



⑥ 人感センサー



⑦ 自然換気



ZEB Ready 実現に向けた取り組み例

1) ファサードの工夫

- ・日射負荷の大きな東西面の窓面積を極力コンパクトに抑え、南北面から光を取り込む空間構成
- ・窓面には水平庇を設け、夏季の強い日差しを遮り、冬季の日差しを効果的に取り入れる計画
- ・外装面、屋根面の断熱対策を確実にし、外気温の影響を抑える
- ・Low-e ガラスの採用：意匠性を考慮しつつ空調負荷を低減

2) 設備の最適化

- ・高効率 LED 照明、高効率トランスの採用：機器自体の消費電力削減
- ・人感センサーや明るさセンサーを用い、照明負荷の低減
- ・自動制御による運転機器の最適な制御
- ・BEMS(ビル・エネルギー管理システム)によるエネルギー状況の管理
- ・室用途に合わせた空調計画…大空間：中央空調方式 個室：個別空調
- ・潜熱顕熱分離空調機の採用：クールビズにおいても快適な室内環境

3) 見える化による再エネ推進

- ・太陽光パネルの発電量などをエントランスのモニターにて表示することで、職員、利用者両方に省エネの意識付けを行う

4) 創エネ

- ・太陽光発電設備、蓄電池設備の採用：災害時の電力確保
- ・地中熱設備：空調への利用

5) その他

- ・雨水利用：雑用水への利用
- ・節水型器具の採用
- ・井戸の設置…井水：トイレの洗浄水、井水熱：空調への利用
- ・自然換気システム：中間期に外気を取り入れることによる空調エネルギーの削減

※ZEB とは…

Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを旨とした建物のことで、下記 4 シリーズが定義されています。

- 『ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル（ゼブ））』
省エネ（50%以上）＋創エネで 100% 以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物
- 『Nearly ZEB（ニアリー・ゼブ）』
省エネ（50%以上）＋創エネで 75% 以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物
- 『ZEB Ready（ゼブ・レディ）』
省エネで基準一次エネルギー消費量から 50% 以上の一次エネルギー消費量の削減を実現している建物
- 『ZEB Oriented（ゼブ・オリエンテッド）』
延べ面積 10000 m²以上で省エネで用途ごとに規定した一次エネルギー消費量の削減を実現し更なる省エネに向けた未評価技術（WEBPRO において現時点で評価されていない技術）を導入している建物

出典：環境省 ZEB ポータルサイト
URL：http://www.env.go.jp/earth/zeb/about/index.html